各務原市こども計画（案） への意見と市の考え

すべてのこどもと親がしあわせを実感できるまちの実現に向けて、令和7年度から5年間の施策の方向性を体系的に示す「各務原市こども計画（案）」を公表し、下記のとおりパブリックコメントを実施しました。

いただいたご意見は、趣旨を損なわない程度に要約し、できる限り内容ごとに整理・分類した上で市の考え方を示しています。（掲載順は基本目標順）

◆実施期間

令和7年1月7日（月）から 令和7年1月27日（月）まで

◆意見の提出状況

提出者数 15名

提出意見 41件

ご意見 1

対象箇所	P 1 0 2 各種アンケートから見る現状 ○育児環境について
ご意見	
<p>ニーズ調査より、「母親ひとりに子育ての負担が集中することは減少していることがうかがえる。」と記載がありますが、父母ともに子育てに関わるが増加＝母親の負担が減少ではないと思います。</p> <p>子育ての負担が減ったと感じるか？のアンケート調査はしていませんよね。</p> <p>母親の心情を憶測で記載するのはどうかと思います。</p>	
各務原市の考え	
<p>ご意見を踏まえ、当該箇所を下記のとおり修正いたします。</p> <p>(修正前)</p> <p>保育所や認定こども園も増加しており、母親ひとりに子育ての負担が集中することは減少していることがうかがえます。</p> <p>(修正後)</p> <p>保育所や認定こども園も増加しており、母親ひとりが子育てに関わっている世帯の割合は減少しています。</p>	

ご意見 2

対象箇所	P19 第4章施策の展開
ご意見	
<p>まず疑問に思ったのですが、こども未来応援プランは誰に向けたプランですか？ 公務員のための指針ですか？それとも市民に向けてのものですか？</p> <p>市民にあてたものであるなら、詳細な記載がなく内容が分からないものばかりです。 具体的な取り組みと記載している割に、詳細が全く明記されていません。もっと詳細に、誰が見ても分かるように記載していただきたいです。（いつ誰が何をするのか、また数など）</p> <p>色々な事業を行う予定のようですが、事業名だけ記載されても何のことなのか全く分かりません。</p>	
各務原市の考え	
<p>本計画（案）は、本市のこども政策を総合的に推進するための基本理念を定め、その実現のために必要な取組の方向性を示す計画であるため、各事業の詳細まで記載するものではありません。しかしながら、ご指摘を踏まえ、特にわかりにくい事業につきましては、資料編において事業内容を記載いたします。</p>	

ご意見 3

対象箇所	P20 基本目標Ⅰ こどもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 施策1 こども・若者の権利を守るための環境づくり 具体的な取組①こどもの権利に関する理解促進
ご意見	
<p>市の取り組みにおいて、子どもの意見を聞いてもらっているかの問いに対して、「聞いてもらっている」が7割とあるが、その結果に疑問が残ります。</p> <p>学校や家庭において、子どもたちが本当に自分たちの意見や考えを聞いてもらっていると実感できているのでしょうか？</p> <p>子どもの権利条約について、子どもたち自身が知らないし、子どもたちに関わる大人も理解していない。</p> <p>どんな子でもあってもあたり前に持っている権利…子どもの権利条約を、子どもも大人も一緒に学ぶ機会があるといいと思います。</p>	
各務原市の考え	
<p>こども自身やこどもに関わる大人がこどもの権利に関する理解を深めることができるよう、「具体的な取組①こどもの権利に関する理解促進」のとおり、学校における人権教育や市人権施策推進指針に基づく人権啓発等の取組を推進してまいります。</p> <p>こどもと大人と一緒に学ぶ機会については、関連部署と連携し検討してまいります。</p>	

ご意見 4

対象箇所	P20 基本目標Ⅰ 子どもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 施策1 子ども・若者の権利を守るための環境づくり 具体的な取組①こどもの権利に関する理解促進 取組01 子ども・若者への子ども基本法・こどもの権利の周知
ご意見	
子どもたち一人一人に こどもの権利が伝わる冊子を作り配布している自治体があります。主な事業に追加して欲しい。	
各務原市の考え	
こどもの権利については、学校において人権教育を行っており、今後更なる周知を図るため、市ウェブサイトにてこどもの権利等について発信するページを作成する予定です。 小中学校の児童生徒にはスマート連絡帳等を通じて周知していきたいと考えています。	

ご意見 5

対象箇所	P21 基本目標Ⅰ 子どもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 施策1 子ども・若者の権利を守るための環境づくり 具体的な取組②子ども・若者の意見表明機会の充実 取組03 こどもの意見表明のしくみづくり
ご意見	
<p>全ての子どもがその年齢及び発達の程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会の確保が保障される権利があります。</p> <p>この権利が形式的なものとならないためにも、定期的な子ども会議の場を設けることを主な事業に追加</p>	
各務原市の考え	
<p>子ども計画の作成にあたって、令和6年8月に実施した中学生・高校生を対象としたワークショップのアンケート結果では、行政等に意見を言う機会があるとすれば、どのような場に参加したいかとの問いに対して「みんなで意見を交換できる場」と回答した方が67%、「少人数で話を聞いてもらえる場」と回答した方が19%、「LINEやXなどのSNS」と回答した方が9%、「子ども会議などこどもの代表が参加する会議」と回答した方は5%でした。</p> <p>また、ワークショップでは十分に意見を言えたかの問いに対しては、ほぼ全員が「十分に言えた」、「ほぼ言えた」と回答しています。</p> <p>本市においては、先のアンケート結果も踏まえながら、特定の代表者に限ることなく、より多くの子どもたちが市の政策形成に対する意見を表明することができる機会を設けていきたいと考えています。</p>	

ご意見 6

対象箇所	P21 基本目標Ⅰ 子どもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 施策1 子ども・若者の権利を守るための環境づくり 具体的な取組② 子ども・若者の意見表明機会の充実 取組03 子どもの意見表明のしくみづくり
ご意見	
<p>21ページに「子どもの権利とは」としてユネスコの解説が引用されています。その中で「原則④子どもの意見の尊重（子どもが意味のある参加ができること）子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。」とされています。では、「子どもは自分に関係のある事柄」である今回のこの「各務原市子ども計画」にどう「意味のある参加」としてかかわったのでしょうか？</p>	
各務原市の考え	
<p>本計画（案）の作成にあたっては、子どもや若者の生活の実態や要望・意見などを把握し、計画に反映するため、高校生・大学生を対象に、「子ども・若者の笑顔が増えるために必要なこと」をテーマとしたワークショップや、子ども・若者の生活と意識に関するアンケートを実施しています。</p> <p>今後も当事者である子ども達の意見を積極的に取り入れていけるよう努めてまいります。</p>	

ご意見 7

対象箇所	P22 基本目標Ⅰ 子どもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 施策2 子どもの多様な居場所づくり
ご意見	
<p>自分が自分らしくいられる場がない子ども、若者がふえています。 「安心して過ごせる多様な居場所」とは？ 居場所に求めることは、安心してありのままの自分でいられる場です。そうした問題意識が伝わらない。</p>	
各務原市の考え	
<p>居場所を持つことは、生きていくうえで不可欠な要素であるため、こどもの居場所づくりは課題ととらえており、「施策2 子どもの多様な居場所づくり」のとおり、子ども・若者が安全で安心して過ごせる多くの居場所を持てるよう、取組を推進してまいります。</p>	

ご意見 8

対象箇所	P22 基本目標I こどもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 施策2 こどもの多様な居場所づくり
ご意見	
<p>よいとおもう 良いと思う</p> <p>かねがかからずに自由に遊べる場所がほしい。</p>	
各務原市の考え	
<p>かかみがはらしには、まなもりの森や市民公園、かかみのしぜんいさんもりけんえいかかみがはらこうえんなどの公園 各務原市には、学びの森や市民公園、各務野自然遺産の森、県営各務原公園などの公園</p> <p>や5つの子ども館などかねがかからずに自由に遊べる場所がたくさんあります。これから や5つの子ども館などかねがかからずに自由に遊べる場所がたくさんあります。これから</p> <p>もみなさんがあんしんあそぶことができる場所についてかんがえたり、あそぶ場所について もみなさんが安心して遊ぶことができる場所について考えたり、遊ぶ場所について</p> <p>の情報を発信していきます。 の情報を発信していきます。</p>	

ご意見 9

<p>対象箇所</p>	<p>P22 基本目標Ⅰ こどもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 施策2 こどもの多様な居場所づくり 具体的な取組①こども・若者の多様な居場所づくり</p>
<p>ご意見</p>	
<p>わたしは、市民プールのウォーター 슬라이ダーを直して、子どもたちが楽しく夏を過ごせるようにしてほしいです。</p> <p>小牧市にある「ふらっとみなみ」みたいなおじいちゃんおばあちゃんから小さい子どもまでがみんな気軽に使える集える施設があったら、もっと交流ができていいのになと思います。</p>	
<p>各務原市の考え</p>	
<p>各務原市民プールは、開館から30年以上経っているので、いろいろなところが古くなり、壊れているものもあります。これから令和7年の夏に屋外の流水プールや子ども用のプールで、みなさんが遊べるように壊れたところを直していきます。</p> <p>ウォーター スライダーも、同じように古くなって危ないので、令和7年の夏はお休みしますが、ウォーター スライダーを直すかどうかはこれから話し合っ決めていくことになります。</p> <p>みんなが気軽に集える施設についても考えていきます。</p>	

ご意見 10

<p>対象箇所</p>	<p>P22 基本目標Ⅰ 子どもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 施策2 こどもの多様な居場所づくり 具体的な取組①子ども・若者の多様な居場所づくり</p>
<p style="text-align: center;">ご意見</p>	
<p>しみんプールのウォータースライダーをみんながあそべるようになおしてほしい。なつをたのしみにしています。 ローラーすべりだいのあるこうえんがあるとうれしいです。</p>	
<p style="text-align: center;">各務原市の考え</p>	
<p>かかみがはらしみん 各務原市民プールは、かいかん 開館から ねんいじょう た 30年以上経っているので、いろいろなところがふる 古くなり、こわ 壊れているものもあります。これから れいわ 令和7年の夏に なつ おくがい りゅうすい 屋外の流水プールや子ども用のプールで、みなさんがあそ 遊ぶようにこわ 壊れたところを なお 直していきます。</p> <p>ウォータースライダーも、おな 同じようにふる 古くなってあぶ 危ないので、れいわ 令和7年の夏はお休みしますが、ウォータースライダーをなお 直すかどうかはこれから はな あ き 話し合っ 決めていくことになります。</p> <p>ローラーすべりだいについては、かわしまかさだちよう 川島笠田町にある「かさだひろば」になが みじか 長さは短いです。せつち 設置されていますので、あそ 遊んでみてください。また、しな い 市内には、やく 約200箇所が かしよ こうえん ありますので、き い お気に入りの公園をさがしてみてください。</p>	

ご意見 11

対象箇所	P22 基本目標Ⅰ 子どもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 施策2 こどもの多様な居場所づくり 具体的な取組①子ども・若者の多様な居場所づくり
ご意見	
<p>多様な居場所つくりとありますが、兄が不登校になったとき、とても困りました。弟が未就園児だったので、こども館につれていきたくても兄は時間外でいれてもらえない。公園とかがあるからそちらにいけばいいという考えなのでしょうか。</p> <p>確かに乳児が楽しく遊んでるなか児童が騒いでしまうのは微妙なところかもしれませんが、納得できませんでした。</p> <p>こどもの権利について考えるのであれば、まずかつてこどもだった私たちが、目線を合わせ、こどもの声をきいていくことが最初なのではないでしょうか。</p>	
各務原市の考え	
<p>子ども館では、入館時間について一部制限をしていた時期があり、ご兄弟の子ども館のご利用に関し、大変ご不便をおかけしました。</p> <p>現在は、制限なくご利用いただけるようになっております。</p> <p>なお、お子さんのみで来館された場合は、確認のために保護者の方にご連絡をさせていただく場合があります。</p> <p>今後も子ども達の様々な意見を聴き、施策に取り入れていけるよう努めてまいります。</p>	

ご意見 12

<p>対象箇所</p>	<p>P22 基本目標Ⅰ ともまんなか社会の実現に向けた環境づくり 施策2 こどもの多様な居場所づくり 具体的な取組①こども・若者の多様な居場所づくり</p>
<p>ご意見</p>	
<p>こどもや若者同士が集まったりして自由に過ごせる場を増やすについて。このような場は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域ごとにある ・どの家庭からも歩いて行ける距離にある ・行きたいと思ったときにふらっと寄れる ・毎日開放している（いつでも行ける） ・老若男女問わず滞在できる ・フリースペースや勉強スペースがあり子どもや若者が集まって話したり一緒に勉強できたりする ・大人が常駐していてあたたかい目で見守っている <p>ということが望ましいと考えています。</p> <p>屋内で雨風を凌げ、快適な温度のなかで過ごせるというのはとても意味があることだと思います。</p> <p>現在の各務原市の施設で、子どもや若者がお金を持ってなくても気軽に集える屋内施設、あるでしょうか？</p> <p>自治会の公民館は自治会の方が使う時にしか開いていません。各コミュニティセンター、各福祉センターは大人が予約して金額を支払わないと部屋を利用できませんよね。とても子どもたちがふらっと遊びに寄れる場所にはなってないです。</p> <p>愛知県小牧市の「ふらっとみなみ」は、市の手続きなどができたり、フリースペースで子どもたちが集って喋って過ごしたり一緒に宿題・勉強したり、奥の座敷でも若者たちが静かに勉強したりなど「大人・子ども」関係なく気軽に利用できます。乳幼児のための子育て支援センターも館内にあり、児童のための遊びスペースもある。大きめのホールもあり、2階には借りられる部屋がいくつかありました。</p> <p>子どもからお年寄りまで気楽に寄れる貴重な場でした。一度視察に行かれてはいかがでしょうか。</p> <p>各務原市も、市の施設、もっともっと活用できるとおもいます。各務原市が決めている使い方次第だとおもいます。ふらっとみなみのような場が各地域にできたらもっと交流が増え、「繋がる」と思います。</p>	

各務原市の考え

いただいたご意見につきましては、こども・若者の居場所づくりを検討するうえで参考とさせていただきます。

ご意見 13

対象箇所	P24 基本目標Ⅰ こどもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 施策2 こどもの多様な居場所づくり 具体的な取組②遊び・体験の場の充実
ご意見	
子どもが「やりたい」と思ったことにチャレンジできるように、できるだけ禁止事項をつくらないで「自分の責任で自由に遊ぶ」 プレーパークのような場を追加すべき。	
各務原市の考え	
いただいたご意見につきましては、こども・若者の居場所づくりを検討するうえで参考とさせていただきます。	

ご意見 14

<p>対象箇所</p>	<p>P24 基本目標Ⅰ こどもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 施策2 こどもの多様な居場所づくり 具体的な取組②遊び・体験の場の充実 主な取組09 歴史・文化に関する体験活動の充実</p>
<p>ご意見</p>	
<p>子どもの文化権の保障、鑑賞体験の保障については、文化芸術基本法や子どもの権利条約の第31条にも示されています。年齢、障がいの有無、経済的な理由なく、ひとしく文化・芸術を鑑賞する環境整備を図らなければならないこと、文化・芸術を創造し、享受することは、生まれながらの権利であることが法律や国際条約に記されています。子どもの文化権を保障することを追加する必要があります。</p> <p>主な事業に文化・芸術を鑑賞する環境整備がない。子ども歌舞伎は特定の地域の子どものみしか参加できない。</p> <p>小・中学校で舞台鑑賞活動を保障するなど文化・芸術を鑑賞する環境整備が必要。</p>	
<p>各務原市の考え</p>	
<p>学校で行う文化的行事は、学習発表会、音楽会、演劇鑑賞会、地域の伝統文化の鑑賞会などがあり、これまでも児童生徒の実態等から学校が適切に判断して実施しておりますので、当該箇所を下記のとおり修正いたします。</p> <p>(修正前)</p> <p>こどもが地域に対する誇りや愛着を持つことができるよう、地域の歴史や文化に直接触れ、楽しく学ぶ機会をつくります。</p> <p>(修正後)</p> <p>こどもが優れた文化芸術を鑑賞し、参加体験できる機会や、文化芸術活動の成果を発表する機会を文化財団、学校、地域と連携し創出します。</p> <p>また、こどもが地域に対する誇りや愛着を持つことができるよう、地域の歴史や文化に直接触れ、楽しく学ぶ機会をつくります。</p>	

ご意見 15

対象箇所	P24 基本目標Ⅰ こどもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 施策2 こどもの多様な居場所づくり 具体的な取組②遊び・体験の場の充実 主な取組09 歴史・文化に関する体験活動の充実
ご意見	
<p>歴史や文化に触れることは大切だと思います。</p> <p>学校行事の中でも、授業時間を確保するために文化芸術は二の次にされて、演劇鑑賞などの学校公演がなくなりつつあることに危惧しています。</p> <p>子どもの文化権を保障するためにも、小・中学校での舞台鑑賞活動を保障できる環境を整える取り組みを期待しています。</p>	
各務原市の考え	
<p>学校で行う文化的行事は、学習発表会、音楽会、演劇鑑賞会、地域の伝統文化の鑑賞会などがあり、これまでも児童生徒の実態等から学校が適切に判断して実施しておりますので、当該箇所を下記のとおり修正いたします。</p> <p>(修正前)</p> <p>こどもが地域に対する誇りや愛着を持つことができるよう、地域の歴史や文化に直接触れ、楽しく学ぶ機会をつくります。</p> <p>(修正後)</p> <p>こどもが優れた文化芸術を鑑賞し、参加体験できる機会や、文化芸術活動の成果を発表する機会を文化財団、学校、地域と連携し創出します。</p> <p>また、こどもが地域に対する誇りや愛着を持つことができるよう、地域の歴史や文化に直接触れ、楽しく学ぶ機会をつくります。</p>	

ご意見 16

対象箇所	P24 基本目標Ⅰ こどもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 指標
ご意見	
指標「市の取り組みにおいて、こども・若者の意見を聴いてもらえていると思う小中学生の割合」 アンケート結果に疑問。不登校の子どもたちの声は反映されていますか。	
各務原市の考え	
指標の資料とした「こども・若者の意識に関するアンケート」については、学校を通じた依頼のほか、広報紙や市ウェブサイトで広く周知しており、回答していただいた小中学生の中に学校に行きづらさを感じている等の児童生徒が含まれているかは把握しておりませんが、本計画（案）を推進するにあたり、こども・若者の声を聴き、意見を反映できるよう努めてまいります。	

ご意見 17

対象箇所	P24 基本目標 I こどもまんなか社会の実現に向けた環境づくり 指標
ご意見	
<p>施策に主な事業を掲げ、指標項目を定めていますが、事業と指標項目がずれていると思います。</p> <p>例えば、施策2 指標項目</p> <ul style="list-style-type: none">・市の取り組みにおいて、こども・若者の意見を聞いてもらえていると思う小中学生の割合・市民のアイデアや意見が市政に反映されていると思う小中学生の割合・人権を尊重しあえていると感じる市民の割合 <p>をあげていますが、主な取り組みのどの事業に対する指標ですか？</p> <p>かと思えば</p> <ul style="list-style-type: none">・放課後児童クラブ待機児童数 <p>のようにピンポイントで指標となる項目もあります。</p> <p>すべての事業に相応する指標項目をあげてほしいです。現状の指標項目では施策事業に対する評価ができないと思います。</p> <p>それぞれの事業に対し指標を設定しないと、施策事業に効果があったのか、改善点はどこか、事業自体が必要なのか、が見えてこないと思います。</p>	
各務原市の考え	
<p>指標項目「市の取り組みにおいて、こども・若者の意見を聞いてもらえていると思う小中学生の割合」、「市民のアイデアや意見が市政に反映されていると思う小中学生の割合」は、21ページの「具体的な取組②子ども・若者の意見表明機会の充実 取組03 こどもの意見表明のしくみづくり」に、また、「人権を尊重しあえていると感じる市民の割合」は、20ページの「具体的な取組①こどもの権利に関する理解促進」に対応する指標となっています。</p> <p>すべての取組に対応する指標は設定しておりませんが、第6章計画の推進に記載のとおり、毎年度の取組の進捗状況を「各務原市子ども・子育て会議」に報告し、同会議において点検・評価を行うことで、施策の達成に向けた効果検証、施策の改善、充実を図ってまいります。</p>	

ご意見 18

対象箇所	P25 基本目標Ⅱライフステージを通した切れ目ない保健・医療の提供 施策1母子に対する健康支援
ご意見	
<p>課題としては、出産を取り巻く状況の変化には、出産現場の問題もあります。</p> <p>出産のプロセスの医療化によって、妊産婦死亡率、周産期死亡率は減っていますが、妊婦や産後の女性の自殺、産後鬱、乳幼児虐待は増え続けています。</p> <p>2018年、WHOが発表したガイドラインには、ポジティブな出産体験のための分娩期ケアとして、女性中心のケアであること、そして、母子が強く成長し健康に生きるための潜在能力を最大限に引き出すことに重点を置き、妊娠、出産、産後の期間を通した助産師主導の継続ケアをWHOが推奨しています。しかし、実際には妊娠、出産、産後の期間、同一の助産師による継続ケアを受けられる妊婦はほとんどいません。</p> <p>主な取り組みのどこかに追加</p> <p>リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、性と生殖に関する健康と権利を守るためには情報が不可欠です。どこで誰とどう産むか、その選択をするための情報の充実を追加すべき。費用やサービスに関しての情報は詳細にあるが、出産に対して、本当に必要知りたい情報はほとんどない。</p> <p>自宅分娩、会陰切開率、TOLAC対応、母子同室、授乳支援など選べることも知らない、助産院と産院の違いすら分からず、納得いかない医療介入等でお産のトラウマに苦しむ女性が多い。</p> <p>マイ助産師(LMC助産師)の存在を伝える。各務原市は助産院が多い恵まれた地域です。</p>	
各務原市の考え	
<p>出産に関しては様々な情報があるため、それらの全てをウェブサイト等に掲載していませんが、出産場所や出産方法に関するご相談があれば、選択肢の一つとしてお示しする等随時情報提供を行ってまいります。</p>	

ご意見 19

<p>対象箇所</p>	<p>P25 基本目標Ⅱライフステージを通した切れ目ない保健・医療の提供 施策1 母子に対する健康支援 具体的な取組①妊娠期から乳幼児期を通した支援 主な取組1 1 産後ケア事業の提供と産前産後の支援の充実</p>
<p>ご意見</p>	
<p>マイ助産師制度をご存知でしょうか？</p> <p>マイ助産師制度は、妊娠・出産・産後を通した一対一の継続ケアを提供する制度です。出産場所やリスクの程度に関わらず、妊婦が選んだ助産師が、妊娠初期から産後まで継続的にケアを行います。</p> <p>マイ助産師制度のメリットには、次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中から産後まで同じ助産師が継続的にケアを行うことができる ・妊産婦が希望する場所でケアを受けることができる ・妊産婦が生活の場で、家族に囲まれながらケアを受けることができる ・妊娠、出産の正常な経過が維持され、異常の予防や早期発見ができる ・産後の不安からの病院依存などが減少し、医療費の削減につながる ・助産師にとっては他の働き方に比べ、仕事に対する満足度が高く、バーンアウトも少ないといわれている <p>マイ助産師制度では、妊産婦の希望する場所で、妊婦健診、出産時のケア、産後ケアを受けることができます。勤務形態や所属に関わらず、病院、クリニック、助産院、自宅など、さまざまな場所でケアを受けることができます。</p> <p>妊婦をとりまく環境は百人十色です。</p> <p>妊婦さんが「この助産師さんなら安心して相談できる」と選ぶことで、妊娠出産産後の悩みが解決したり心の負担も軽くなると思います。私自身も産前産後の大変だった時期に、マイ助産師制度を活用できたらどんなに心強かったかわかりません。</p>	
<p>各務原市の考え</p>	
<p>本市では、妊娠・出産・子育ての伴走型相談支援を行っており、マタニティ広場や産後ケア事業、新生児訪問など様々な母子保健事業を通して、岐阜県助産師会や医療機関、助産院と連携しています。</p> <p>妊娠期から、出産・子育て期にわたり、母子ともに切れ目のない支援を行うため、今後も地域の助産師と連携し、伴走型相談支援の充実に努めてまいります。</p>	

ご意見 20

対象箇所	P29 基本目標Ⅱライフステージを通した切れ目ない保健・医療の提供 施策2 こども・若者の健康づくり 具体的な取組①体力と健康づくり
ご意見	
<p>高校の学校給食の導入をお願いしたいです。小中学校と同様に、給食をお願いしたいです。</p> <p>母親がお弁当の用意する事になる事が多いと思います。現在の主婦は、仕事と家事と育児と各種役員の仕事、親の介護など、いろいろ抱えています。体調が悪くても休めません。鎮痛剤や栄養ドリンクなどでフラフラになって、倒れそうになるのを必死に堪えて日々をこなしています。高校生の栄養などを考えて食事の準備が出来ない事は、多々あります。</p> <p>学校給食は、とても有難いです。栄養士さんが考えてくれるので、とても安心です。公立高校だけでも、出来ないでしょうか。助けて下さい。ご検討、お願いします。</p>	
各務原市の考え	
<p>公立高等学校は都道府県が設置者、私立学校は学校法人が設置者となりますので、高等学校を所管する学校の設置者（都道府県の教育委員会等）にお問い合わせいただくようお願いいたします。</p>	

ご意見 21

対象箇所	P29 基本目標Ⅱライフステージを通した切れ目ない保健・医療の提供 施策2 こども・若者の健康づくり 具体的な取組①体力と健康づくり 主な取組19 性や妊娠に関する知識の普及啓発
ご意見	
<p>自分の健康に向きあえるよう支援します。学校において保健体育の授業などにより、性と健康に関する教育や啓発を推進します。</p> <p>性や妊娠に関する知識の普及啓発、学校での教育の啓発とか、それは当たり前のことです。性と生殖に関する健康と権利に関する正確な情報を学ぶ権利があるのです。そのために、エビデンスに基づいた包括的性教育を受ける権利を保障すること追加すべきです。</p>	
各務原市の考え	
<p>性に関する指導としては、学習指導要領に基づき児童生徒の発達段階に応じて、命の大切さや、心や体を守るなどについて指導しています。</p> <p>今後も、子どもたちが正しい知識と望ましい行動を身に付けることができるよう必要な指導を行ってまいります。</p>	

ご意見 22

対象箇所	P33 基本目標Ⅲこどもが自分らしく成長・活躍できる環境・機会づくり 施策2安心して学ぶことができる学校づくり 具体的な取組①教育の充実と環境の整備 主な取組2.5確かな学力の育成
ご意見	
<p>現在私は「ららら学習室」の講師をしています。学年によって差はありますが、他人の学びを妨げているような行動をすることも学習室の中に混在してることがあります。これが何とか対処できないかと考えます。ボランティアではこの子どもを指導することは困難に想っています。</p>	
各務原市の考え	
<p>ららら学習室において落ち着いて学習に向かうことの難しい児童生徒への対応については、ららら学習室ホップでは学校職員が、ららら学習室ステップ・ジャンプでは、コーディネーターが学校教育課と連携して支援や指導を行いますので、お困りのことがありましたらご相談ください。</p>	

ご意見 23

<p>対象箇所</p>	<p>P34 基本目標Ⅲこどもが自分らしく成長・活躍できる環境・機会づくり 施策2安心して学ぶことができる学校づくり 具体的な取組①教育の充実と環境の整備 主な取組27特別支援教育の充実</p>
<p>ご意見</p>	
<p>特別支援教育について</p> <p>インクルーシブ教育システムの実現に向けて、とありますが、各務原市の目指すインクルーシブ教育というのはどのようなものでしょうか？世界で実践されているインクルーシブ教育とは、障がいのある子もない子も分け隔てなく、同じ学校、同じクラスで、適切な配慮を受けながら、また全ての生徒たちが社会には障がいを含め、いろんな人たちがいて、互いに尊重し合い、同じ社会で共存していくのだ、ということを読んでいく教育のことを指すものだと認識していますが、各務原市の学校がそれを目指しているようには残念ながら思えません。幼稚園までは比較的分け隔てなく、さまざまな個性のある子も同様に園から扱われ、そのため子どもの間でも差別はあまりないと思われませんが、小学校に入ったとたん、学校のさまざまなルールに従うこと、守ることを求められ、それをうまくできない児童は先生から注意されたり叱られたり、生徒同士で声を掛け合うようにと求められ、生徒がミニ先生ようになってうまく行動できない生徒を注意したりして、学校の求める行動ができない子に対しては、悪い子だ、ダメな子だ、努力の足りない子だ、という印象を子どもたちに伝えてしまっていると思います。障がいのある子は、学校の求めることがうまくできないことが多いため、多くの児童からはダメな子という認識になってしまいます。それがいじめの原因になったり、うまくできない子自身の学校での生き辛さになったり、その結果不適切な言動や不登校等に繋がっていくことも多いと思います。</p> <p>インクルーシブ教育を目指すのであれば、さまざまな背景から上手く学校のルールが守れない生徒のことも受け入れ、尊重し、社会にはさまざまな個性を持った人たちがいるのだということを全ての子どもたちに伝えて、学校の場で他者とどう付き合うかを試行錯誤しながら学んでいけるようにすべきではないでしょうか？</p> <p>現状では、特別支援学級や特別支援学校などに多くの障がいのある子が通っており、インクルーシブ教育からは程遠いものとなっていると思います。うまくできない子たちは、通常の学級にはいられないと思われれます。通常の学級にいれば、他の子に迷惑になると言われたりします。ルールを守れない悪い子だと、他の子どもたちから責められたりもします。本当に悪い子でしょうか？ただ、うまくできないだけなのです。うまくできない子は程度の差があるだけで、たくさんいます。ぎりぎりできている子も、学校では苦しかったりします。その心労が重なり、ある日不登校になることもあります。うまくできない多くの子がいるのだと、子どもたちは学校という場で知り、共に過ごす方法</p>	

を見つけていくのがインクルーシブ教育だと思います。分けてしまったら、その機会を失うことになります。子ども時代にさまざまな個性のある人と共に過ごす機会がないと、大人になってから障がいのある人などどのように付き合っていけばいいかもなかなか分からないものです。障がいのある子と、特にはない子(いわゆる普通の子)が同じクラスでやっていくことは、今までとは全く違うため、簡単ではないかもしれませんが、日本でも多数の実例があるので参考にできると思います。ただ同じクラスに入れればよい、訳ではなく、先生が分け隔てない眼差しを生徒たちに向けている学校が、うまくいっている実例校だと思います。障がいのある人とも共に過ごし、さまざまな個性の人ともぶつかりながらも共に学んだ経験のある子どもたちこそ、差別をしない大人に成長していけると思います。そして、どんな個性も否定されない環境に過ごした子どもたちは、自分にも自信を持つことができるのではないのでしょうか？理想論かもしれませんが、今のままでは理想からは程遠すぎるので、時間がかかっても方向性だけは正しい方へ進んでいく各務原市であってほしいと常に願っています。

各務原市の考え

インクルーシブ教育は、障がいのある子どもとない子どもが共に学ぶ機会を通して、共生社会が形成されることを大きな目的としています。その際には、「障がいのある子どもが一般的な教育制度から排除されないこと」、「自分が生活している地域で初等中等教育の機会が与えられること」、「個々に必要な合理的配慮が提供されること」の3つが重要であると考えています。

ご意見 24

<p>対象箇所</p>	<p>P33 目標Ⅲ子どもが自分らしく成長・活躍できる環境・機会づくり 施策2安心して学ぶことができる学校づくり 具体的な取組①教育の充実と環境の整備 主な取組29学校に行きづらさを感じている等の児童生徒への支援</p>
<p>ご意見</p>	
<p>かかみがはらし ぎふし そうじゅんちゅうがっこう ちゅうがっこう ほ 各務原市にも、岐阜市にある草潤中学校みたいな中学校が欲しいです。</p>	
<p>各務原市の考え</p>	
<p>かかみがはらし がっこう い かん じどうせいと さんか 各務原市には、学校に行きづらさを感じている児童生徒のみなさんが参加できる「あ すなろ」「さくら」「ココカラ」という教室があります。それぞれの教室には特徴が あるので、自分にあつた教室に参加することができます。</p>	

ご意見 25

<p>対象箇所</p>	<p>P33 目標Ⅲ子どもが自分らしく成長・活躍できる環境・機会づくり 施策2安心して学ぶことができる学校づくり 具体的な取組①教育の充実と環境の整備 主な取組29学校に行きづらさを感じている等の児童生徒への支援</p>
<p>ご意見</p>	
<p>ぼくはフリースクールにかよっています。 がっこうにいてないけどたのしくあそんだりべんきょうしたりしているのを、がっこうにいてない子たちにもしてほしい。</p>	
<p>各務原市の考え</p>	
<p>^{かかみがはらし}各務原市では、^{がっこう}学校に行っていない^こ子たちに、さくら・なか、さくら・まえみやとい^う場所を^{しょうかい}紹介することもあります。^{がっこう}学校以外にも、^{かつどう}活動できる^い居場所があることを^{つた}伝えて</p>	

ご意見 26

対象箇所	P34 基本目標Ⅲこどもが自分らしく成長・活躍できる環境・機会づくり 施策2安心して学ぶことができる学校づくり 具体的な取組①教育の充実と環境の整備 主な取組29学校に行きづらさを感じている等の児童生徒への支援
ご意見	
<p>特に気になっているのは、不登校児童生徒や学校環境です。</p> <p>不登校生徒は、メンタルサポート学習サポートがまったくと言っていいほどされていません。9年間指導要領の外に置かれ16歳で初めて学び直しをするような今の状況ではかわいそうです。どうか、岐阜市草潤中学からアイデアを取り入れていただきたいと思います。</p>	
各務原市の考え	
<p>不登校児童生徒への学校での支援体制としてスクールカウンセラー、スクール相談員、心の教室相談員などの配置を行っており、個の状況に応じて可能な範囲での学習サポートを行っています。</p> <p>今後、必要に応じて他市町の事例も参考にし、よりよいサポートができるよう努めてまいります。</p>	

ご意見 27

対象箇所	P34 基本目標Ⅲ子どもが自分らしく成長・活躍できる環境・機会づくり 施策2安心して学ぶことができる学校づくり 具体的な取組①教育の充実と環境の整備 主な取組29学校に生きづらさを感じている等の児童生徒への支援
ご意見	
多様な学び場の保障、フリースクールとの連携などが伝わらない。	
各務原市の考え	
市の教育支援センターが、児童生徒の実態にあった居場所として一つの選択肢となると考えております。 また、フリースクール等民間施設等と学校との連携は個別の対応をしています。	

ご意見 28

対象箇所	P34 基本目標Ⅲ子どもが自分らしく成長・活躍できる環境・機会づくり 施策2安心して学ぶことができる学校づくり 具体的な取組①教育の充実と環境の整備 主な取組29学校に行きづらさを感じている等の児童生徒への支援
ご意見	
学校へ行けない子の居場所として、民間のフリースクールともっと連携をとってはどうか。不登校の子の居場所の選択肢を増やしてほしい。	
各務原市の考え	
フリースクール等民間施設・団体とは、保護者、児童生徒の意向を踏まえた上で、学校が中心となり定期的な連絡などの連携を行っています。また、市の教育支援センターが、児童生徒の実態にあった居場所としての選択肢となると考えております。	

ご意見 29

対象箇所	<p>P34</p> <p>基本目標Ⅲ子どもが自分らしく成長・活躍できる環境・機会づくり</p> <p>施策2安心して学ぶことができる学校づくり</p> <p>具体的な取組①教育の充実と環境の整備</p> <p>主な取組29学校に行きづらさを感じている等の児童生徒への支援</p>
ご意見	
<p>冒頭の文章「悩みや問題を抱えた児童生徒」という言葉に違和感をおぼえました。学校に通う子ども学校に行かない選択をする子ども学校に行きたくても行けない子ども、それぞれ1人ひとり違う「個」であり、物事の感じ方・受け取り方・捉え方も様々であることを良しとするのなら、その子本人がどのような状態の時も、(例えば学校に行けなくなった等の時も)自分がこれからどこでどう過ごしていくのかを自分で選択できるある程度の選択肢が明確になっているとありがたいですね。</p> <p>その選択肢の一つには、民間で子どもたちの居場所支援をしている場や、民間のフリースクールなども子どもたちや保護者が「いつでも知れる」状態であることが望ましいと考えます。</p>	
各務原市の考え	
<p>「悩みや問題を抱えた児童生徒」という表現は、ネガティブな印象をもつ表現にもなりますので、ご意見を踏まえ、当該箇所を下記のとおり修正いたします。</p> <p>児童生徒の実態にあった居場所として、市教育支援センターが選択肢となると考えております。フリースクール等民間施設等は、教育委員会が管轄し指導等をしておりませんので施設等の紹介はしていません。</p> <p>(修正前)</p> <p>悩みや問題を抱えた児童生徒が相談できる環境を整えるとともに、</p> <p>(修正後)</p> <p>児童生徒が安心して悩みや困りごとを相談できる環境を整えるとともに、</p> <p>P30 主な取組20 学校における相談体制の充実</p> <p>(修正前)</p> <p>悩みや問題を抱えた児童生徒が相談できる環境を整えます。</p> <p>(修正後)</p> <p>児童生徒が安心して悩みや困りごとを相談できる環境を整えます。</p>	

p 3 3 施策 2 安心して学ぶことができる学校づくり 現状と課題

(修正前)

児童生徒の抱える課題や悩みに寄り添い

(修正後)

児童生徒の抱える悩みに寄り添い

ご意見 30

対象箇所	P34 基本目標Ⅲ子どもが自分らしく成長・活躍できる環境・機会づくり 施策2安心して学ぶことができる学校づくり 具体的な取組②学校における指導・運営体制の充実 主な取組30教員の働き方改革や指導・運営体制の充実
ご意見	
<p>「主な取組30教員の働き方改革や指導・運営体」において、教員の長時間労働に触れられていません。</p> <p>各務原市の小・中学校における教員の残業時間の実態はどうなっているのでしょうか？その対策は不要なのでしょうか？各務原市だけが残業がない実態であるとは考えられません。私は勤務終了後、20～21時の間に鶯沼第一小学校の西側を通って帰宅しますが、職員室の灯りが消えていることはありません。</p> <p>教員の笑顔が子どもの笑顔につながります。指標にも小学校、中学校のそれぞれの教員の残業時間の実態と減少させる目標の設定を提案します。</p>	
各務原市の考え	
<p>「働き方改革」という言葉に、教員の長時間労働削減の意味を内包しております。</p> <p>そして、時間外勤務上限月45時間、年360時間を目標にして働き方改革を推進してまいります。</p>	

ご意見 31

対象箇所	P39 基本目標Ⅲこどもが自分らしく成長・活躍できる環境・機会づくり 指標
ご意見	
指標「90日以上欠席している児童生徒のうち、教育支援センターを利用した人数の割合」 教育機会確保法には、多様な学び場の保障されているのに、なぜ教育支援センター利用だけが指標の対象となるのか。	
各務原市の考え	
本指標は、教育委員会の行っている事業として、不登校児童生徒への対応をはかるものの一つの指標として設定いたしました。	

ご意見 32

対象箇所	<p>P4 1</p> <p>基本目標IV配慮を必要とするこどもや家庭への支援の充実</p> <p>施策1 困難な状況にあるこども・若者への支援</p> <p>具体的な取組①障がいのあるこども・若者への支援</p> <p>主な取組4 2障がいのあるこどもへの切れ目のない支援</p>
ご意見	
<p>主な事業「医療的ケア児の支援体制の整備」の整備とは具体的にどういうことで、目標は何にすると考えておられるのでしょうか？保護者が仕事とケア児の子育てが両立できることまでを目標とするべきだと考え、提案します。</p>	
各務原市の考え	
<p>「医療的ケア児の支援体制の整備」とは、コーディネーターの配置や協議の場を設けることにより関係機関との連携を図り、在宅生活を支えるサービスの充実を図ることや、保育所等や学校について、集団保育等が可能である医療的ケア児が利用を希望する場合や学校の入学を希望する場合に、受入体制を整備するもので、具体的には、看護師の配置や、施設環境の整備、職員の知識・理解を深めるための研修の実施等になります。</p> <p>今後も医療的ケアが必要なこどもが適切な支援を受けられるよう、本人とその家族への支援体制の整備を進めてまいります。</p>	

ご意見 33

<p>対象箇所</p>	<p>P42 基本目標Ⅳ配慮を必要とするこどもや家庭への支援の充実 施策1 困難な状況にあるこども・若者への支援 具体的な取組②ヤングケアラーやひきこもり状態にある若者の支援</p>
<p>ご意見</p>	
<p>ヤングケアラーは子どもたちにアンケートを書いていただければ 発見できる可能性が高いといわれています。主な取組46にアンケートの実施を提案します。</p>	
<p>各務原市の考え</p>	
<p>本市では、教員などヤングケアラーを見つけやすい立場の方を対象に研修を毎年行い、また、令和6年度からは、こどもからの相談を直接受け付ける「LINE 相談」窓口を開設し広く周知するなど、様々なヤングケアラー支援を行っております。</p> <p>ヤングケアラーは、自身の負担や不調、生活上の支障に対する自覚がない場合も考えられることから、今後も引き続き、本人に気づきを与えるような周知・啓発を行うとともに、アンケート調査を実施してまいります。</p> <p>当該箇所を下記のとおり修正いたします。</p> <p>(修正前)</p> <p>ヤングケアラーを早期発見し、適切な支援につなげられるよう、社会的認知度の向上を目的とした周知・研修を実施します。</p> <p>(修正後)</p> <p>ヤングケアラーを早期発見し、適切な支援につなげられるよう、社会的認知度の向上を目的とした周知・研修を行うとともにアンケート調査を実施します。</p>	

ご意見 34

<p>対象箇所</p>	<p>PP43 基本目標IV配慮を必要とするこどもや家庭への支援の充実 施策2 こどもの虐待防止の強化 具体的な取組①虐待の未然防止と総合的な支援 主な取組48 虐待の未然防止と総合的な支援 P49 主な取組56 子育てを学ぶ場の充実</p>
<p style="text-align: center;">ご意見</p>	
<p>1月22日の中日新聞の記事で虐待 リスクを学ぶ機会を作るという岐阜県海津市の取り組みが紹介されていました。この記事では、全ての保護者を対象に虐待リスクを減らすアプローチは難しい中、検診を利用して子育て支援講座を開くと紹介されています。</p> <p>これを各務原市でも実施すべきだと提案します。主な取組の56「子育てを学ぶ場の充実」とあわせての実施を提案します。</p>	
<p style="text-align: center;">各務原市の考え</p>	
<p>本市では、令和6年度より「各務原市こども家庭センター」を設置し、様々な機関と連携しながら、専門の相談員が子育てに悩む各家庭を支援することで、虐待の早期発見と予防に向けた取り組み及び事後支援を実施しております。</p> <p>また、啓発活動として、児童虐待防止推進事業への参加、啓発チラシの配布など様々な活動を行っておりますが、今後も教育委員会等の関係機関と連携し、ご提案の事業も参考にしながら多くの啓発機会を捉え、虐待の未然防止に努めてまいります。</p>	

ご意見 35

対象箇所	P44 基本目標IV配慮を必要とするこどもや家庭への支援の充実 施策3 こどもの貧困解消の支援 具体的な取組①教育機会の充実 主な取組49 教育支援の推進
ご意見	
主な取組49「こどもが家庭の環境に左右されることなく、学習意欲や学習習慣を身につけられるよう支援する」、この具体的事業が不足しているように思います。私に提案はありませんが、このような家庭のこどもに向けた学習支援が必要だと考えています。	
各務原市の考え	
本市では、基礎学力定着事業の一つとして、ららら学習室ホップ、ステップ、ジャンプという放課後学習室を開設しています。対象は、小学校3年生～中学校3年生です。	

ご意見 36

対象箇所	P47 基本目標V子育て家庭への支援の充実 施策1子育て支援の充実
ご意見	
<p>具体的にどこに該当するかわかりません。申し訳ないです。</p> <p>私の娘は小児がんと共に生活し9年となります。幸いなことに不自由ながらも周りの子とは同じように生活できています。しかし、抗がん剤をしたり、手術をしたり、失明の危機と背中合わせにおり、視力低下しており、今度は京都の病院へ通院することとなりました。障害者手帳、特別児童扶養手当は、全て非該当のため、なんの制度も受けられておりません。(元氣と判断されありがたいことではあるのですが。)</p> <p>小児慢性の申請はしておりますが、実質見えないところの医療費の請求先は変わりますが、患者本人は何も変わりなく、親としては、診断書や必要書類の費用がプラスとなっているだけです。(こちらは保健所にも意見をあげましたが「ご理解ください」とのお返事だけでした。)</p> <p>実質病院受診に関わることで、たくさんの費用はかかっております。しかし、娘のためであれば、費用は気にせず、娘たちに明るい未来があると信じ、パートや内職でつないでおります。また妹が2人おりますが、妹たちの預け先や精神的負担の軽減などたくさんの支援が必要であり、周りに助けてもらっています。我が家はかなり貴重なケースとなり、また、小児がんは症例数が少ないため、医療の進歩もありません。もちろん、福祉制度も充実しません。それは仕方のないことだと私たち親はわかっております。しかし、このような制度の狭間にいる娘や妹たちに、少しでも光がさすような市であると嬉しいです。</p> <p>全ての子どもたちが心身共に元気でいられる、全ての子どもたちが心身共に元気に大人になれる各務原市であってほしいです。</p> <p>まとまりのない意見で申し訳ないです。</p>	
各務原市の考え	
<p>本市のすべてのこどもが個人として尊重され、健やかに成長できるよう、また子育てを行う当事者が不安や孤立感、仕事との両立などの悩みが軽減され、子育てに喜びや幸せを感じるができるよう、本計画(案)の取組を進めてまいります。</p> <p>なお、令和6年度より設置している「各務原市こども家庭センター」は、子育て等で不安を感じた方に対して、保健師、子育て支援相談員、家庭児童相談員などの専門の相談員が必要に応じたサービスを紹介するなど様々な支援を行っておりますので、こどもに関する総合窓口としてご相談ください。</p>	

ご意見 37

対象箇所	P47 基本目標V子育て家庭への支援の充実 施策1子育て支援の充実
ご意見	
<p>様々な施設や施策があるようですが、分散していて分かりづらく利用者が必要なサポートに辿り着けないと予想します。職員自身も全体像が把握ができず一歯車のような働き方になってしまうのではと心配です。</p> <p>「おくやみ窓口」のような「こども窓口」が必要だと思います。</p> <p>オンラインでは、ワード検索一発で必要なサポートに辿り着けるようなシステムが必要です。</p> <p>そしてなにより、申請方式ではなく情報や補助が自動で来る必要があると思います。利用者が努力しなくてもサポートに辿り着ける仕組みをよろしくお願いします。</p>	
各務原市の考え	
<p>本市では、令和6年度より「各務原市こども家庭センター」を設置し、市内のすべての妊産婦から子育て家庭まで切れ目なく支援できるように関係機関と連携しながら、取り組んでおります。</p> <p>当センターは、誰もが利用できる相談窓口で、子育て等で不安を感じた方に対して、保健師、子育て支援相談員、家庭児童相談員などの専門の相談員が必要に応じたサービスを紹介するなど様々な支援を行っていますので、こどもに関する「総合相談窓口」として、ご相談ください。</p> <p>また、子育て支援に関する情報が必要な方にわかりやすく届けられるよう、市ウェブサイトの実績など、さまざまな媒体を活用した情報発信を行っています。</p>	

ご意見 38

対象箇所	P48 基本目標V子育て家庭への支援の充実 施策1子育て支援の充実 具体的な取組①子育てに関する相談支援体制の充実 主な取組5.5子育て支援情報の提供
ご意見	
<p>各務原市の公式 LINE について。公式 LINE は各種の情報が入り混ざって登録者に届きます。もう少し、情報を区分できるように教育とか子育てとかに特化した情報を選択できる LINE にすれば、必要な情報が必要な市民に届けられるのではないのでしょうか。登録する時に、「全て」や「子育て」「企業情報」など選択できる仕組みを提案します。</p>	
各務原市の考え	
<p>現在は、限られた情報だけではなく、さまざまな情報を市民の方に知ってほしいとの思いから、LINE の情報を限定することなく配信しております。</p> <p>今後は情報を選択できるようにする仕組みの導入も検討していきます。</p>	

ご意見 39

<p>対象箇所</p>	<p>P48 目標V子育て家庭への支援の充実</p>
<p>ご意見</p>	
<p>とてもたくさんの事業を計画されているようですが、すべて必要なものですか？ 行う事業が「すべての子どもと親が幸せを実感できるまち」を叶えるための事業ですか？</p> <p>P12 子育ての辛さを解消するために必要なことにおいては、 「父親などの育児参加の促進」 また、P13 子ども・若者のために必要な市の取り組みにおいては、 「お金の心配をすることなく学べるように支援する」 が最も多くの割合を示しています。 これらの回答結果をもとに、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父親の育児参加促進 ・子育て世帯への経済負担の軽減 <p>を事業にすればよいのではと思うのですが、現状の事業にはないように思います。 なぜ市民の意見をもとに事業を展開していただけないのでしょうか？</p>	
<p>各務原市の考え</p>	
<p>本計画（案）に記載の事業につきましては、基本理念を実現するために、すべて必要な事業であると考えております。</p> <p>ご意見いただきました、父親の育児参加を促進する事業については、 49ページ「基本目標5 子育て支援の充実 施策1 子育て支援の充実 具体的な取組② 子育てを学ぶ場の充実」の「主な事業◆ライフデザインセンター親子・子育て世代対象講座」の中で、父親支援講座（夫婦で協力して育児を行うことを推進するため、家庭内での役割分担などを考えるきっかけとなるような父親向けに特化した講座）を実施するほか、 52ページ「基本目標5 子育て支援の充実 施策3 子育てと仕事の両立支援 具体的な取組①共働き・共育ての推進 主な取組6 6 両立支援事業の促進」の「主な事業◆両立支援事業」の中で、父親などの育児参加の促進に関するセミナー等を開催いたします。</p> <p>また、子育て世帯への経済負担の軽減の事業として、 49ページ「基本目標5 子育て支援の充実 施策1 子育て支援の充実 具体的な取組③ 子育てに関する経済的負担の軽減」の取組を実施してまいります。</p>	

ご意見 40

<p>対象箇所</p>	<p>P65.67 第5章教育・保育及び地域子ども・子育て支援場の量の見込みと確保方策 (5) 教育・保育の利用量の見込みと提供体制の確保内容(区域別)</p>
<p>ご意見</p>	
<p>「保育」の利用量の見込みと確保方策について、現在の確保体制で対応することが可能であると結論づけています。</p> <p>しかし、配慮が必要な子どもが何人おり、そのうち何人が保育園等の利用を希望しているか、その子達を預かるためには加配が何人必要か、考慮されているのでしょうか。園の物理的・人的環境が整わないことを理由に障害児の就園を断られたり、就園を待たされたりする現状があります。</p> <p>基本目標Ⅳ 施策1 困難な状況にある子ども・若者への支援 具体的な取組①「障がいのある子ども・若者支援」では、障がいのある子どもへの切れ目のない支援に重点を置いており、主な事業として障がい児保育事業を掲げています。障がいの有無にかかわらず、本人の負担を最小限にスムーズに就園できる体制整備のために、配慮が必要な子どもの保育ニーズの調査と考察が必要不可欠です。</p>	
<p>各務原市の考え</p>	
<p>「保育」の利用量の見込みと確保方策については、人口推計や過去の実績を踏まえ、今後、保育を希望されるお子さんの数を見込み、その見込みに対して保育定員が現在の体制で対応することができるかを計画しており、配慮が必要なお子さんをお預かりするために必要な保育士の加配人数は、おおまかに見込んでいますが、具体的には今のところ考慮されていません。</p> <p>ご意見をいただいたとおり、障がいの有無にかかわらず、本人の負担を最小限にスムーズに就園できる体制整備のため、保護者の方や児童発達支援事業所等の職員と情報共有をしながらニーズを把握し、本人の負担が最小限となるよう検討し、環境整備に向けて進めてまいります。</p>	

ご意見 41

対象箇所	P75 第5章教育・保育及び地域子ども・子育て支援場の量の見込みと確保方策 3各年度における地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保内容 (16) 乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)
ご意見	
<p>「こども誰でも通園制度」について、こちらの制度を現在市内で行っている「一時預かり事業」とどう区別して扱っていくのか。また「誰でも」という名目である以上、子ども一人ひとりに合わせた適切な対応が必要となると思いますが、どうやって体制を整えていくのか。ニーズ調査とアセスメントの必要性。</p> <p>現在の一時預かりでは「集団保育では本人の負担が重すぎると判断された乳幼児」「市長が一時預かりの対象として適当でないと認めた乳幼児」など保護者からは分かりづらい理由で一時預かりを利用できない家庭があります。未就園児の中には、障がいを持つお子さんも一定数含まれており、一人ひとりの安全を確保できないがゆえに受け入れの体制が整わない、保護者、園、専門機関との連携を図り、そういった問題を解決できなければ「誰でも通園」は実現不可能であると考えています。</p>	
各務原市の考え	
<p>「こども誰でも通園制度」と「一時預かり事業」は、どちらも一時的にこどもを預かるという点では共通していますが、主な違いとして事業の目的が異なります。</p> <p>「こども誰でも通園制度」は、こどもの良質な成育環境を整備するとともに、多様な働き方やライフスタイルにかかわらない形での支援を強化することを目的としているのに対し、「一時預かり事業」は、家庭において保育することが一時的に困難になった乳幼児や、保護者の負担を軽減するために一時的にお預かりすることを目的としております。</p> <p>ご意見のとおり一時預かり事業については、投薬や医療的ケアや特別な配慮が必要なお子さんについては、配置する職員に限りもあることから、事情を説明させていただいた上で利用時間を制限させていただくことなどがあります。</p> <p>令和8年度から実施する「こども誰でも通園制度」においては、障がいを持つお子さんの受け入れについて、児童発達支援事業所と情報共有しながらニーズを把握し、他市の取組や考えを踏まえて体制の整備に努め、実施に向けて進めてまいります。</p>	